

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民科	日本史B	3	高校2年11組

使用教科書	副教材
『詳説 日本史B』(山川出版社)	『詳説 日本史図録』(山川出版社) 『詳録 新日本史史料集成』(第一学習社) 『山川 一問一答 日本史』(山川出版社)

1. 学習の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で大きく考えさせる。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察させることによって歴史の見方・考え方を身につけさせ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養うことをねらいとする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化のはじまり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権	・更新世の時代に旧石器文化が営まれ、完新世に入って縄文・弥生文化が展開する。その間におきた農耕の開始やそれに伴う国家形成の動きを捉え、4～5世紀の古墳時代にヤマト政権が連合政権を確立していった様子を理解させる。	授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績
	5	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への道 3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安王朝の形成	・7世紀、律令国家建設の歩みが本格的に進められ、平城京の時代に古代国家を現出し、天平文化が開花する。その過程と、8世紀末、平安京遷都など律令再建の動きを理解させる。	
	6	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	・律令体制が動揺する一方で、土地制度面では農民の成長が見られ、荘園・公領体制に切り替わり、政治面では摂関政治から武士の台頭が目立ち、私権化の方向に進んでいく。文化面では貴族政治の下で国風文化が開花するなど日本独自の社会発展が進む中、古代から中世への過渡期を捉える。	
2	9	第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立	・11世紀末、院政に続く源平争乱を戦い抜いた源頼朝が鎌倉幕府を開き、源氏将軍3代の後、北条氏の執権政治・得宗専制政治が展開する様子を理解させる。	授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績

3	10	3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉時代初期の公武二元支配の様子と、承久の乱を契機に武家勢力が公家勢力を圧倒する様子を捉えるとともに、文化面でも公武二元性が見られたことにも留意させる。 	授業態度 授業ノート提出 小テスト 定期試験の成績
	11	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府滅亡後、建武新政という古代政権が一時復活するが、この成立と崩壊を契機として武家社会がいつその成長を見せていく様子を理解させる。 ・南北朝動乱期に守護が成長し、室町幕府の将軍と対立・妥協を行ったが、その後、応仁の乱を契機に時代が戦国時代へと移行し、下克上の風潮のもと戦国大名の激しい構想が展開された様子を理解させる。 	
	12	4. 戦国大名の登場		
	1	第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> ・16世紀半ばのヨーロッパ人來航を踏まえ、織豊政権が中世末期の戦国争乱を収束して、近世の出発点を開いた様子を理解させる。 ・織豊政権を引き継いだ形となった徳川氏がいわゆる幕藩体制を固め、寛永期までに幕府組織を整備し、対外的にも鎖国体制を完成させることで、日本の近世社会が成立していった様子を理解させる。 	
	2	3. 幕藩体制の成立		
	3	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・寛永期を画期として幕政が安定期を迎える。 	

※ 上記の内容は、進捗によって変更される場合がある。